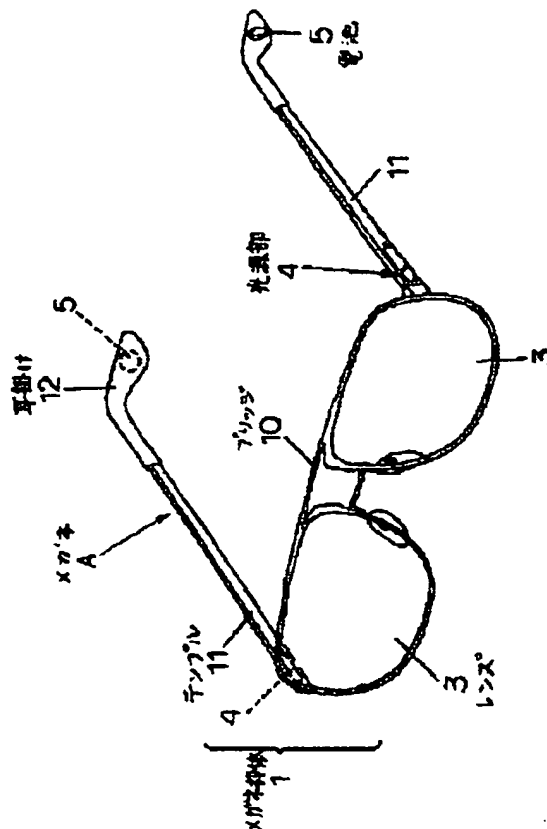


## Patent Abstracts of Japan

TITLE : SPECTACLES WITH LIGHT



COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(43)公開日 平成12年2月8日(2000.2.8)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>  
G 0 2 C 11/04

**識別記号**

FI  
G02C 11/04

レポート(参考)

審査請求 未請求 請求項の数3 OL (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平10-209547

(22)出願日 平成10年7月24日(1998.7.24)

(71)出願人 597017292

内膝 勝義

愛知県西尾市山下町東八幡山55番地4

(72) 発明者 内藤 勝義

愛知県西尾市山下町東八幡山55番地4

(74) 代理人 100083068

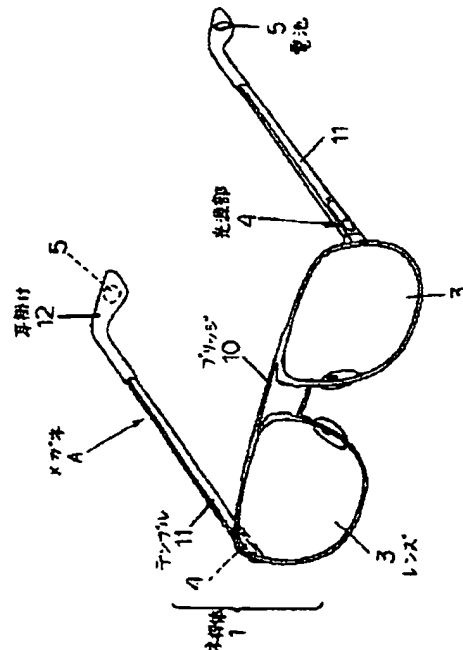
井理士 竹中 一宜

(54) 【発明の名称】 ライト付きメガネ

(57) 【要約】

【課題】光源(ライト)、光源部等を、効率的に棒体の周外、周外部のレンズ間に設けた構成はある。しかし、光源部が、使用者の顔の中心部にあることから、使用時に違和感があり、かつ使用に躊躇する。また僅かであるが熱を持つ故、長時間の使用には少なからず抵抗感がある。単に効率的に棒体にライト及び電池等を設けるにとどまっているので、装飾性に乏しく、装着に対する希望、趣向等の面に工夫が不足すること、及び実用面での課題がある。

【解決手段】本発明は、違和感なく使用でき、かつ使用時にアタクション感覚を楽しむことができ、趣味と実益を兼ねながら使用できる付付き材を提供する。構成は、材棒体とレゾとで材棒体を構成し、この材棒体のレゾ側に易方向性の光源部を設け、またこの材棒体の耳掛けに電源を設けることを特徴とし、この光源部の光で視認する面積を、文字数で略5〜8文字とすること、及び電源収容の耳掛けを装飾体として活用する構造である。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】  $M$  が棒体とレンズとで構成される  $M$  が棒体であつて、

当該  $M$  が棒体のレンズ側に易方向性の光源部を設け、またこの  $M$  が棒体の耳掛けに電源を設け、前記光源部で一定の角度を視野し、かつ略3～8程度の文字数、又は略5cm程度の広さを照射できることを特徴とするライト付き  $M$  棒体。

【請求項2】 上記の光源部は、角度及び方向が変更できることを特徴とする請求項1に記載のライト付き  $M$  棒体。

【請求項3】 上記の光源部の取付部を、可撓性部材で構成したことを特徴とする請求項1に記載のライト付き  $M$  棒体。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はライト付き  $M$  棒体に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のライト付き  $M$  棒体としては、次のような文献が挙げられる。(1)実開昭56-156022号のライト付眼鏡フレームで、その要旨は、フロントのレンズ間にライト、又レンズ間に電池を組み込んだ構成であり、暗やみでの視認の向上を図る。(2)実開昭57-22720号のライト付眼鏡フレームで、その要旨は、前記文献(1)と略同様である。(3)実開平6-7702号の診察用眼鏡及び眼鏡に使用する診察用照明装置で、その要旨は、眼鏡のフロント部のブリッジに光源部を設け、視認する箇所全体を明るくするか、又は狭小範囲に集光させるかのいずれかを採用するもので、診察時の視認性、及びペンライト等の外部照明を省略して診察等の向上を図る構成である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 前記文献(1)～(3)は、光源(ライト)、光源部等の照明部が、 $M$  が棒体のフロント、又はフロント部のレンズ間(ブリッジ)にあり、いわゆる使用者の顔の中心部にあることから、使用時に違和感があり、かつ使用に躊躇すると思われること、又は僅かであるが熱を持つことから長い時間の使用には少なからず抵抗感があること、等の課題がある。

【0004】 また前記文献(1)～(3)は、単に  $M$  が棒体にライト及び電池等を設けるにとどまっているので、装飾性

前記光源部で一定の角度を視野し、かつ略3～8程度の文字数、又は略5cm程度の広さを照射できることを特徴とするライト付き  $M$  棒体である。

【0007】 請求項2の発明は、ライトの照射方向の自由性及び利便性を確保し、かつこの照射方向の確実性、簡便性等を達成することを目的とする。

【0008】 請求項2は、光源部は、角度及び方向が変更できることを特徴とするライト付き  $M$  棒体である。

【0009】 請求項3の発明は、光源(ライト)の照射方向を、ワンタッチでかつ自由に変更し、使用に利便性を付与することを目的とする。

【0010】 請求項3は、光源部の取付部を、可撓性部材で構成したことを特徴とするライト付き  $M$  棒体である。

【0011】

【発明の実施の形態】 使用した状態で暗やみ又は薄暗い所で文字等をみる場合に、スイッチをON(自動式もある。)して光源(ライト)を点灯する。この光源(ライト)の光は、30cm離れた所で、文字数では略3～8文字程度視認できる広さ、又は略5cm程度視認できる広さについて照射できる構成とする。このように文字が略3～8文字程度視認できれば、読み書き、工具の取扱い、読付け等の使用にさしつかえないこと、又は電池の消費量を軽減できる特徴がある。殊に、本発明では光源(ライト)をレンズ側に設ける構成であるので、使用しても違和感がないこと、長時間使用ができること、及びこの長時間使用でも邪魔とならず、かつ熱による人体の昇温回避等に役立つこと、等の有益性を備える。そして、光源(ライト)の向きは一定の角度で視野を照射できる構成、又は自由に変更できる構成、更には光源部の変更、即ち、広範囲の光源(ライト)による照射を利用して事故、池への滑落等の危険性の回避に役立つ処である。

【0012】 また本発明は耳掛けに電池を收容するスペースを確保するとともに、当該耳掛けへの装飾、又は耳掛けへの装飾品の吊下げ等として装飾体として活用することもできる。尚、電池が取替えできることは勿論である。

【0013】

【実施例】 以下、本発明の一実施例を図面に基ついて説明する。

【0014】 1は  $M$  が棒体の  $M$  が棒体であり、この  $M$  が棒体はレンズ10と、レンズ11及び耳掛け12とで構成されてい

イト) 42は、例えば、略3～8文字程度を照明・視認できる範囲とする。従って、狭い範囲を視認すること

向が変更できることを特徴とするライト付き  $M$  棒体である。従って、ライトの照射方向の自由性及び利便性を確保し、

イト) 42は、例えば、略3〜8文字程度を照明・視認できる範囲とする。従って、狭い範囲を視認することを主眼とする。尚、光源部4を設ける方式は、レンズ11の外側面、上面、内面、或いは内蔵等の何れでもよいが、利便性、光の到達及び効能、体裁等を考えると、外側面、上面が望ましい。また図4〜図8の例では、レンズ11に取り付けられる取付部41と、この取付部41に回転及び/又は首振り自在に設けられた光源(ライト)42とで構成されており、取付部41の回転等を介して光源(ライト)42が自由に所定方向を向く構成である。他の構成、効果等は前述の例と略同様である。

【0016】5はメガネ本体1の耳掛け12に設けた電池であり、前記光源(ライト)42と結線されている。この耳掛け12に電池5を設けるが、当該耳掛け12は使用時に比較的邪魔とならず、かつ体裁が悪くならないことから、この耳掛け12が望ましい。尚、当該耳掛け12は電池5を設けることによりやや大きくなるのでこの耳掛け12に他の目的を付与する。例えば、装飾体として役立てる目的で、装飾を付与すること、又はファーン、飾りひも、イヤリング等の装飾物の吊下げ部(孔を設けることが望ましい。)、その他の装飾物の着脱等ができる構成とすることが望ましい。

【0017】尚、光源部4のメカネは、当該光源部4自体に設ける例、メガネ本体1の適所に設ける例等が考えられる。

【0018】

【発明の効果】請求項1の発明は、メガネ本体とレンズとでメガネを構成し、このメガネ本体のレンズに易方向性の光源部を設け、光源部で一定の角度を視野し、かつ略3〜8程度の文字数、又は略5cm程度の広さを照射できる構造である。従って、違和感なく使用でき、かつ視認面積を確実に照射できること、また趣味と実益を兼ねながら使用できること、等を意図する。

【0019】請求項2の発明は、光源部は、角度及び方

向が変更できることを特徴とするライト付きメガネである。従って、ライトの照射方向の自由性及び利便性を確保し、かつこの照射方向の確実性、簡便性等を達成できる特徴がある。

【0020】請求項3の発明は、光源部の取付部を、可撓性部材で構成したことを特徴とするライト付きメガネである。従って、光源(ライト)の照射方向を、ワンタッチでかつ自由に変更し、使用に利便性を付与できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】メガネ全体の一例を示す斜視図である。

【図2】図1の光源部の一例を拡大して示す斜視図である。

【図3】図1の側面図である。

【図4】メガネ全体の他の一例を示す斜視図である。

【図5】図4に使用する光源部の一例を拡大して示す斜視図である。

【図6】図4のメガネの光源部を旋回した一例を示す斜視図である。

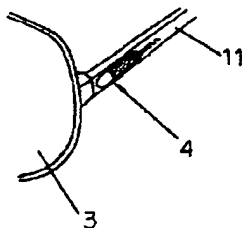
【図7】図4のメガネの光源部を旋回した一例を示す平面図である。

【図8】図4のメガネの光源部を上下動した一例を示す側面図である。

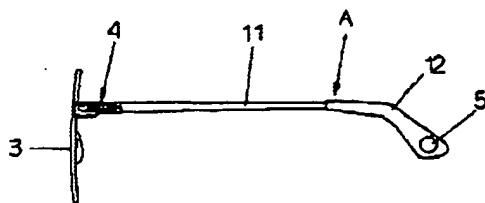
【符号の説明】

1	メガネ本体
3	レンズ
4	光源部
41	取付部
42	光源(ライト)
5	電池
10	ブリッジ
11	レンズ
12	耳掛け
A	メカネ

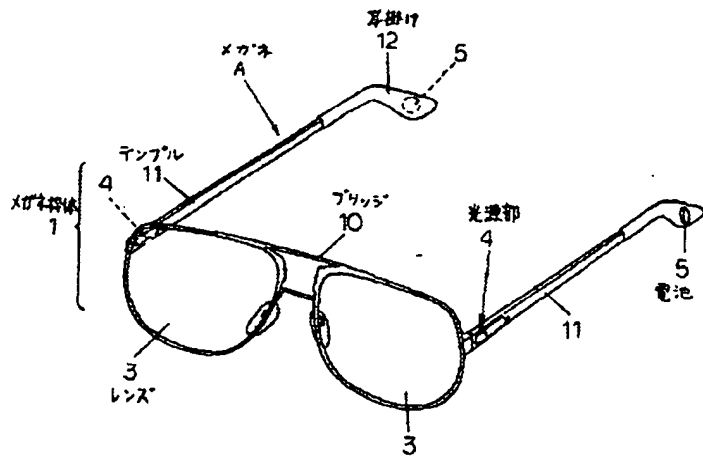
【図2】



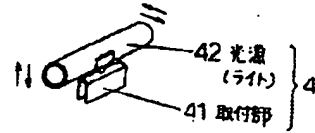
【図3】



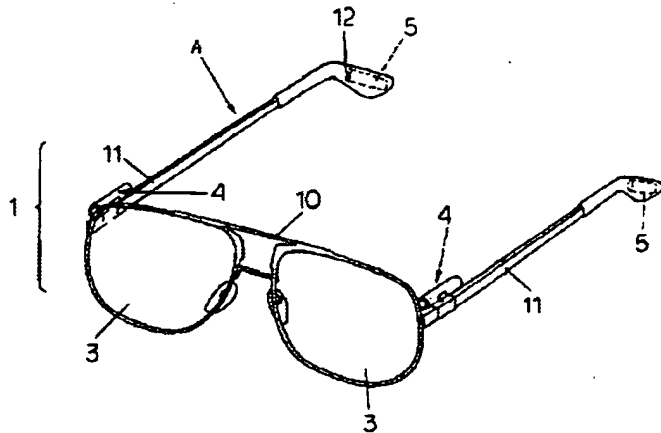
【図1】



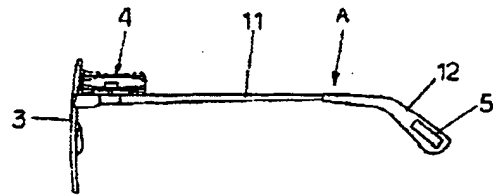
【図5】



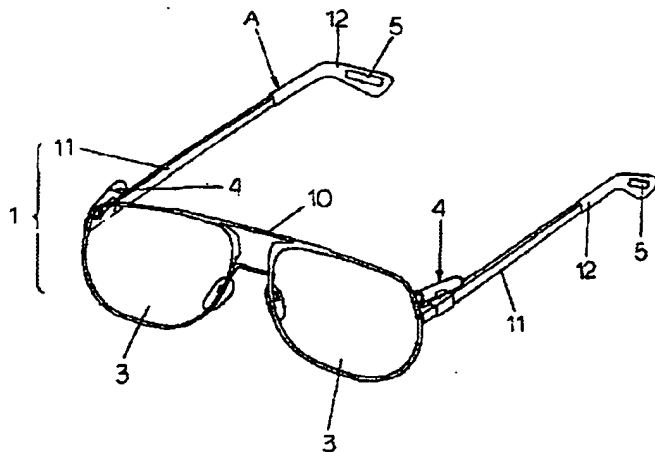
【図4】



【図8】



【図6】



【図7】

